【資料 1-4-③】

全国の過去の地震災害事例

発生年月日	地震規模	地震名	津波	最大 震度	災害の内容
明応 7 (1498)年 8月 25日	8. 4	明応地震	0	7	室町時代後期の明応年間に起こった大地震。文献や発掘調査などから、東海・東南海・南海の三連動地震によるものと考えられている。高さ4メートルから10メートル程度の津波が房総半島から紀伊半島にかけての沿岸を襲った。
慶長 9 (1605)年 12月 16日	7.9	慶長地震	0	7	地震動による被害はほとんどなく、津波が房総、伊豆、紀伊、四国、九州を襲った。記録から推定される津波の高さは、房総と紀伊、四国で高く、静岡県沿岸で比較的低い。八丈島にも津波が襲って死者 57 人を出した。以上のことからこの地震は、房総沖(北緯34.3°、東経140.4°、マグニチュード7.9)と紀伊水道沖(北緯33°、東経134.9°に同時に二つの地震が発生したものと考えられてきたが、南海トラフ沿いの遠州灘はるか沖合に一つの巨大地震が起きたという考えも出ている。
宝永 4 (1707)年 10 月 28 日	8. 6	宝永地震	0	7	日本の歴史上最大級の地震。マグニチュードは8.6と推測される。遠州灘(えんしゅうなだ)沖と紀伊半島沖を震源とする二つの大地震が同時に発生したと考えられ、東海道・伊勢湾・紀伊半島が最も大きな被害を受けた。死者約2万人。家屋倒壊約6万戸、流失約2万戸といわれる。
嘉永 7 (1854) 年 12 月 23 日	8. 4	安政地震	0	7	安政年間(1854 - 60)に起こった地震で、次の三つが著名。1854 年 12 月 23 日(安政1年11月4日)午前9時すぎに安政東海地震(安政地震 I)が遠州灘沖に発生した。震央位置は北緯34°、東経137.8°、震源域は遠州灘沖から駿河湾内の全長200km以上の海域におよんでいることが明らかとなった。有感地域は岩手県から九州におよんでいる。被害のひどかったのは、沼津から浜松に至る沿岸よりの地域と、富士川沿いに甲府盆地におよぶ地域である。
明治 24(1891)年	8.0	濃尾地震		6	1891 年 10 月 28 日、岐阜・愛知を中心 に起きた大地震。死者 7273 人、全壊家

10月28日					屋約 14 万戸。明治年間最大の地震で、
					根尾谷断層が出現。この地震を機会に
明治 29(1896)年 6月15日	8. 2	明治三陸地震	0	2 ~ 3	震災予防調査会が発足した ゆっくりとした長い揺れで震度はさほど大きくなかったため、ほとんどの人が早期避難しなかった。35分後、大津波が三陸沿岸を襲い、死者約2万2千人、家屋流失1万軒弱。大船渡市の一部では津波の高さは30メートルを超えたとされる。
大正 12(1923)年 9月1日	7. 9	(関東大 震災)	0	6	大正12年(1923)9月1日午前11時58分に、相模湾を震源として発生した大地震により、関東一円に被害を及ぼした災害。家屋倒壊に火災を伴い、全壊約13万戸、全焼約45万余戸、死者・行方不明者約14万名。震災直後の混乱の中で、亀戸事件・甘粕事件が起き、また、多数の朝鮮人が官憲・自警団によって虐殺された
昭和 8(1933)年3 月3日	8. 1	昭和三陸地震	0	5	岩手県東方沖の日本海溝付近では、巨 大な地震が起こり、三陸沿岸に大津波 をもたらすことがある。津波は明治期 の地震がややまさったが、地震動は昭 和期がはるかに強かった。明治期は規 模のわりに地震動が弱い特異な地震で あり、地震の原因である断層の運動が 通常の地震よりも遅い速度で進行した ものと考えられている。津波の被害が 大きい原因は、地震の規模もさること ながら、三陸沿岸のリアス式の海岸地 形が、湾奥での津波の高さを著しく増 大させるからである。
昭和 18(1943)年 9月10日	7. 2	鳥取地震		6	鳥取市を中心に大きな被害を及ぼした。死者 1083 人。家屋全壊 7485 戸。また、この地震によって長さ8 キロメートルの鹿野(しかの)断層と、同 4.5 キロメートルの吉岡断層が出現した。
昭和 19(1944)年 12月7日	7. 9	東南海地震	0	6	東海・近畿地方を襲った。熊野灘沿岸で6~8メートル、遠州灘沿岸で1~2メートルの津波が発生。紀伊半島東岸では30~40センチメートル地盤が沈下した。死者・行方不明者1223人。
昭和 20 (1945)年 1月13日	6.8	三河地震	0	5	死者約2、000人、家屋倒壊5、500余戸。軍需産業地域の直下で起こったためマグニチュードに比して大きな被害が出た。約一か月前の東南海地震の震源域の東北隣接域で発生したもの。
昭和	8	南海地震	0	5	九州・近畿・中国・四国にわたり大被

21(1946)年					害を与えた地震。南海道地震とも。震
12月21日					青を子んた地震。 田海道地震とも。 展 源地は潮岬南西方 50km 付近。 大津波が
12 万 21 日					あり、室戸岬で1.27m、足摺岬で0.6m
					地盤が隆起し高知や須崎で 1.2m 沈下
nn 1					して水田 15km が海面下に没した。
昭和					福井市における典型的な直下型地震で
23(1948)年	7. 1	福井地震		6	家屋への被害が多く、死者約3、900
6月28日					人。
					チリ近海で発生。太平洋を経て巨大な
					津波が日本を襲った。三陸海岸を中心
昭和		オリル声			に全国で142人の死者・行方不明者が
35(1960)年	9.5 ※ 1	チリ地震	\circ	_	出た。東日本大震災の被災地が被害を
5月23日		津波			受け、宮城県旧志津川町(現・南三陸町)
0 /1 20 H					で41人、岩手県大船渡市で53人が犠
					性になった。
					社にならた。 神戸市を中心とした阪神地域に被害を
平成		(阪神・			及ぼした災害。
7(1995)年1	7. 3	淡路大震	\cap	7	死者約 6400 人、家屋全半壊約 24 万
月 17 日	1.0	災)			9000 棟、家屋全半焼約 7100 棟で、鉄
刀工口					道・高速道路なども大きな被害を受け
					た。
## 4 F F					釧路沖を震源として発生した逆断層型
平成 15 年		十勝沖地			プレート間地震。北海道から東北地方
(2003年)	8.0	震	0	6弱	の太平洋沿岸に最大約4メートルの津
9月26日					波が襲来し、被害を及ぼした。
					逆断層型地震。北魚沼郡川口町(現長
亚比16年					
平成 16 年	0.0	新潟県中		_	岡市)で震度7を観測した。大規模な
(2004年)	6.8	越地震		7	余震が続き、地震発生前の長雨による
10月23日					地盤の緩みと重なって、地滑りなどの
					被害が拡大した。
平成 19 年					逆断層型地殼内地震。マグニチュード
	6 0	能登半島		c 社	6.9。石川県内の3市町で震度6強を観
(2007年)	6.9	地震		6強	測。住宅全壊が600戸、半壊が1500
3月25日					戸をこえる被害をもたらした。
					逆断層型地殻内地震。新潟県3市村と
平成 19 年		新潟県中			長野県1町で最大震度6強を観測。柏
(2007年)	6.8	越沖地震	0	6強	崎刈羽原子力発電所も被害にあった。
7月16日		NOT THE DEC			死者 15 人、負傷者 2000 人をこえる。
亚比 20 年		出工 . 台	-	-	
平成 20 年	7.0	岩手・宮		4E 0	岩手県奥州市と宮城県栗原市で最大震
(2008年)	7. 2	城内陸地		6強	度6強を観測。土砂災害による被害が
6月14日		震			大きく、400人をこえる死傷者が出た。
					三陸沖を震源として発生したマグニチ
					ュード 9.0 の地震。宮城県栗原市で最
平成 23 年		東北地方			大震度7を観測。巨大津波を引き起こ
(2011年)	9.0	太平洋沖	\circ	7	し、沿岸部を中心に甚大な被害が出た。
3月11日		地震			津波は東北地方の沿岸部では最高潮位
					9.3メートル、遡上高40.5メートルに
					達する巨大津波が発生した。本震後も、
			l	l	圧り切片八件似が光工した。

					岩手県沖から茨城県沖の広い範囲で余
					看子祭作がら次級祭件の広い範囲で示し 震が多発。死者・行方不明者は約1万
					9000 人とされる。
		熊本地震		7	熊本県を中心に、多数の家屋倒壊、土
T - A 20 F					砂災害等により死者64名、重軽傷者
平成 28 年	6. 5 7. 3				約1,816名の甚大な被害が出た。電気、
(2016年)					ガス、水道等のライフラインへの被害
4月14日					のほか、空港、道路、鉄道等の交通イ
4月16日					ンフラにも甚大な被害が生じ、住民生
					活や中小企業、農林漁業や観光業等の
					経済活動にも大きな支障が生じた。
					震源地:胆振地方中東部
		北海道胆振東部地震			マグニチュード:6.7
	6. 7				震源の深さ:37km
					住家全壊 462 棟
平成 30 年 (2018 年)				7	住家半壊 1,570 棟
					住家一部破損 12,600 棟など
					死 42人、負 762人
9月6日					・数日前からの降雨により地盤が緩ん
					でいるところに地震が発生したため、
					土砂災害を誘発した。また、北海道の
					発電所が停止したことにより、北海道
					のほぼ全域でブラックアウト(停電)
					が発生した。
					マグニチュード (M) 7.6、深さ 16km
	7.6	令和6年 能登半島 地震	0	7	の地震が発生し、石川県輪島市、志賀
					町で震度7を観測。
					地震による建物の倒壊・損壊に加え、
					輪島市では市街地の火災による「複合
A 5- 0 F					災害」が発生。石川県珠洲市、能登町
令和6年 (2024年) 1月1日					及び志賀町の3市町、新潟県上越市で
					は、津波により約 200ha が浸水した。
					また、石川県、富山県、新潟県の広い
					範囲で、液状化による被害が発生した。
					死者 260 人、負傷者 1,579 人
					住家全壊 8,424 棟
					住家半壊 20,461 棟
					住家一部破損 96,826 棟
		<u>j</u>	l .		工分 即形式只 30,020 7本

※1 地震の規模 (マグニチュード)、ただしチリ地震津波はモーメントマグニチュード。

%2 1922 年以前の地震の震度については気象庁の震度データベースには収録されていないため、地震の最大震度については、地震報告・地震年報・気象要覧(中央気象台)によるものを括弧付きで記載している。なおこの期間の震度は、微・弱・強・烈の階級で記載してあるので、これに対応する震度を、 $1\sim6$ におきかえて表現してある。